

刊行にあたって

歯科治療においては、常に患者固有の咬合様式を考慮して保存修復、欠損補綴などの治療が行われております。時には咬合調整が必要な場合もあり、また咬合管理は欠かせません。治療前に現症の把握をすることは大切であり、更に健全な顎機能を得るために検査を行いますが、どのような検査をどのように評価し、治療に生かすかは難しく、実際の対応に苦慮している歯科医師は少なくありません。更に、ブラキシズム、顎関節症など、既に顎機能に障害のある患者も増えてきており、歯科医師としてはその治療も担わなければなりません。

本書では、日常臨床に欠かせない咬合における最新知見を整理し、正常な咬合とは何かを考察しています。第1章では診断基準となる咬合に関連した基礎知識、第2章では咬合の検査・診断のために使用するさまざまな器具・器材の使用法や使用時のポイント、第3章では咬合調整やスプリント療法など、咬合治療のポイントをさまざまな面からわかりやすく、事例を交えて示しています。また、第4章では症例集として、咬合に関連する症例をいくつか提示しました。

本書を通して従来からの咬合治療に対するアプローチに加え、更に咬合の長期安定にかかわる健全な顎関節、神経筋機構、咬合の3次元的な調和が必要であることに着目していただけたらと考えます。現在、適正顎頭位及び生理的な顎運動でみられる安定した咬合接触や咀嚼筋の筋活動を直接把握・評価することができる手段が求められています。そのためには、電子機器などを用いて、咬合接触点や関連筋群の筋活動を迅速かつ正確に評価することも必要であると考えます。

本書によって「難解」といわれる咬合臨床が、読者の諸先生にとって「明快」となれば幸いです。

2011年6月 編集委員一同